

# 日本作業科学研究 投稿規定

(2016年4月17日改定)

1. (編集委員会) 日本作業科学研究会の機関誌「作業科学研究」(Japanese Journal of Occupational Science) の編集と発行に必要なことがらを行うため、編集委員会を組織する。編集委員会には、編集委員長を置き、編集委員は委員長の指名によって任命する。
2. (資格) 投稿者(筆頭者) は原則として本研究会会員とする。ただし、依頼原稿についてはこの限りではない。
3. (論文の種類) 投稿原稿は、作業および作業的存在に焦点を当てたものであり、作業科学の研究推進、学問的発展に寄与するもので、未刊行のものに限る。論文の種類は次の通りとする。
  - (1) 総説：研究や調査論文の総括および解説
  - (2) 研究論文：明確な構想に基づいた作業科学研究
  - (3) 実践報告：作業科学の視点に基づいた報告と考察
  - (4) 短報：萌芽的又は独創的な作業科学研究・プロジェクト
  - (5) 資料：作業科学に関連する事柄の紹介、資料を含む
  - (6) 書評：単行本や学術論文の紹介、抄録、評論を含む
  - (7) その他：編集委員が適当と認めたもの
4. (投稿手続き) 投稿者は原稿の作成、投稿、編集委員会からの通知を受け取る。
  - (1) 投稿者は、投稿時には執筆要領が守られていることを確認する。
  - (2) 原稿は、Word等の文書ソフトを使用して作成し、電子メールでファイルを送信する。
  - (3) 投稿後2週間後までに原稿受理の通知がない場合は、投稿者が編集委員会事務局に連絡する。
  - (4) 原稿受理の返信後2か月後までに掲載に関する通知がない場合は、投稿者が編集委員会事務局に連絡する。
5. (原稿掲載の判断) 原稿掲載の判断および編集は編集委員会が行う。総説、研究論文、実践報告については、査読をへて編集委員会が掲載の可否を決定する。編集委員会が必要と判断した場合、字句の修正を行う。掲載の順番は、掲載決定日に基づき編集委員会が判断する。
6. (査読) 機関誌の原稿について、一定の質を確保することを目的に査読を行う。
  - (1) 査読の対象は、総説、研究論文、実践報告、短報とする。資料、書評、その他の原稿は査読を行わず、編集委員会が掲載の可否を判断する。
  - (2) 査読は、編集委員会が応募原稿のすべてを読み、個々の応募原稿に適切な査読者を協議して決定する。応募原稿の執筆者となっている編集委員は、この協議には含まれない。
  - (3) 査読プロセスは、投稿者に対する伝達を除き、非公開とする。
  - (4) 編集委員会は、原則として一原稿につき2名の査読者を選定し、期限を付して査読を依頼する。
  - (5) 査読者は、担当原稿について、「作業科学研究」の執筆要領と論文審査項目に沿って、掲載に関する判定を行う。論文審査では、投稿規程との適合性に加え、内容、方法、倫理的配慮、概念や用語の用法、文章表現、図表の内容と体裁、省略語や単位や数値、表題、引用文献の内容と体裁についての適切性を判定する。
  - (6) 査読の判定結果(無修正で掲載可、修正後に掲載可、修正後に再査読、掲載不可)と査読者からのコメントを、編集委員会から投稿者に伝達する。
7. (掲載費用) 採択された投稿原稿の図ならびに表のうち、改めて作成する必要がある場合、および、別冊については、当分の間、投稿者の実費負担とする。
8. (著作権) 掲載されたすべての論文の著作権は本研究会に帰属する。
9. (その他) その他の必要な事項については、編集委員会で決定する。

<編集委員会事務局>

青山 真美 (一般社団法人P&W研究所 アイアム)

E-mail: sagyoukagaku@yahoo.co.jp

# 日本作業科学研究 執筆要領

(2018年5月1日改定)

1. (原稿) 原稿は和文、欧文(英文を原則とする)のいずれかを使用し、文字の大きさを10.5ポイント以上、上下左右の余白を3cm程度とし、A4判の白紙に鮮明に印字する。和文原稿は、1枚あたりの字数を1200字(40字×30行)とする。英文原稿は、一般的フォントおよびサイズを使用し、行間はダブルスペースとする。1枚あたりの語数の目安は400語程度とする。漢字は、必要ある場合以外は当用漢字を用い、かなは現代かなづかい、送りがなを用い、句点はカンマ(,)、読点はピリオド(.)とする。改行の場合は1字あける。図表は印刷面積によって原稿枚数に換算する。和文原稿で外国語を原語で記載するときは、固有名詞やドイツ語の名詞など特別な場合を除き、半角文字で記載する。数字も半角文字とする。
2. (論文の種類と量) 枚数(本文)は、原則として次の通りとする。
  - (1) 総説: 20枚以内(図表を含む)(刷り上がり12ページ以内)
  - (2) 研究論文: 15枚以内(図表を含む)(刷り上がり9ページ以内)
  - (3) 実践報告: 15枚以内(図表を含む)(同上)
  - (4) 短報: 8枚以内(図表を含む)(刷り上がり5ページ以内)
  - (5) 資料、書評: 4枚以内(図表を含む)(刷り上がり1ページ以内)
  - (6) その他: 適量を編集委員会が判断する。
2. (著者) 著者名は5名までとし、それ以外は謝辞に含める。著者が複数の場合は、著者名をカンマ(,)で連ねる。アルファベットで書く場合は、名の頭文字を大文字、残りを小文字にし、姓はすべて大文字にする。
3. (表紙) 第1枚目を表紙とし、論文の種類、原稿の枚数、図表の数を記載する。表題、著者名、所属機関、連絡先(住所、メールアドレス等)については、日本語と英語で記載する。
4. (要旨) 要旨と、内容を示す適切なキーワード4以内を、日本語と英語で記載する。要旨は日本語では400字程度、英語では300語程度とする。
5. (構成) 論文は、論理的な構成で書き、必要に応じて見出しを記載する。原則として、研究論文では、はじめに、方法、結果、考察、文献とする。実践報告では、はじめに、実践の紹介(経過を含む)、考察、文献とする。論文のはじめに、
6. (図表) 図表は、必要最小限度にとどめ、重複をさける。本文と分けて作成し、原稿の末尾に添え、本文中の欄外余白に挿入箇所を赤字で指定する。図表は、表1, Table 1, 図1, Fig.1のように番号を付ける。図の表題は図の下に、表の表題は表の上に入れる。特に必要があれば、図は印刷の時の縮尺を明記し、掲載する部分を「枠」で示す。図は1ページ以内または複数ページにまたがることできる。また、ページ内に収まる場合は、ページ内上部または下部に示す。
7. (人名) 本文中の人名は、必要な場合を除いて姓のみを書き、敬称は省く。欧文綴りのときは、頭文字を大文字、その後を小文字する。本文中の引用箇所では、引用文献の著者と出版年を記す。記載例を示す。

*作業科学研究では、特定の個人を作業的存在として理解する試みがなされている(Clark 他, 1999, 小田原他, 2011)。Polatajko (2010) は、作業について誰が、何を、いつ、どこで、どのように、なぜ、を理解することが作業の真の理解につながると述べている。*
8. (文献) 文献は引用文献のみ記載する。記載は、著者名のアルファベット順とし、文献番号は付けない。各文献は、著者名、刊行年次、表題の順とする。単行本の場合には、表題の後に版数、出版社名(外国の場合は出版地も記す)を書き、雑誌論文の場合には、表題の後に雑誌名、巻数、ページを記す。雑誌名は省略せずに書く。編者がいる単行本の場合には、引用した章の著者名、刊行年次、表題、編者名、書名、版数、出版社名、章のページを記す。翻訳書の場合には、著者名の後に訳者名を書き、できれば原著の情報を記載する。書名および雑誌名は斜字体とする。ウェブサイト上の文献は、サイトのアドレスと参照日を記載する。記載例を示す。

Aoyama, M., Hudson, M.J. & Hoover, K.C. (2012). Occupation mediates ecosystem services with human well-being. *Journal of Occupational Science*, 19, 213-225.

Clark, F., Ennevor, B.L. & Richardson, P.L. (村井真由美・訳) (1999). 作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメーカーのためのテクニックのグラウンデッドセオリー. In Clark, F. & Zemke, R. (Eds.) (佐藤剛・監訳), *作業科学—作業的存在としての人間の研究*. 三輪書店, pp. 407-430.

小田原悦子, 辻郁 (2011). ある脳卒中者が経験した作業の変化～指向性～. *作業科学研究*, 5, 36-44.

Polatajko, H.J. (2010). The study of occupation. In Townsend, E.A. & Christiansen, C.H. (Eds.), *Introduction to occupation: The art and science of living 2nd ed.* Upper Saddle River, NJ, Pearson. pp. 57-79.

World Federation of Occupational Therapists (2012). Position statement on occupational science revised. <<http://www.wfot.org/ResourceCentre.aspx>> 参照日 2012.7.10.

吉川ひろみ (2008). 「作業」って何だろう. 医歯薬出版.  
坂根勇輝 (2015). 回復期リハビリテーション病棟入院中のクライアントと担当作業療法士の相互理解のプロセス. 首都大学東京大学機関リポジトリ「みやこ鳥」 <[https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=6222&item\\_no=1&page\\_id=30&block\\_id=155](https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=6222&item_no=1&page_id=30&block_id=155)> 参照日 2018.2.20.

9. (脚注) 脚注は、通し番号をつけ、本文と分けて記載し、原稿の末尾に添える。脚注に対応する本文中の語句の右肩に上付き数字を記載する

